

## 高校生セミナーが開催されました（7月25日、順天堂大学）

2019年7月25日（木）に、第5回 高校生セミナー「顕微鏡の世界 — 正常細胞とがん細胞の違い — ～顕微鏡で観る細胞の世界，一緒に覗いてみませんか～」が、順天堂大学本郷・お茶の水キャンパスにて開催され、多くの高校生、中学生の方にご参加いただきました。

はじめに、腎臓内科医の高木美幸助教（順天堂大学医学部附属順天堂医院 腎・高血圧内科）から、「腎臓内科医としての腎病理への関わり方」と題して腎臓内科における腎病理の重要性について講演がありました。次に、現役の病理医であるとともに、中高生の教育まで幅広い活動を行っている小倉加奈子先任准教授（順天堂大学医学部附属練馬病院 病理診断科）から、「病気の診断ってどんなふうに行われるの？-病理診断の実際-」と題して、病理医とは？病理診断とは？という疑問についてわかりやすく説明がなされました。午前中最後は、現役病理医である佐伯春美助教（順天堂大学医学部 病理・腫瘍学講座）から、「病理の標本をみるために」と題して、基本的な細胞病理の説明から顕微鏡の操作方法と実際の病理組織を使った標本の見方までの解説がありました。

午後は、参加者の皆さんがグループに分かれて病理標本を観察する実習が行われ、現役医学部生も標本実習のアシスタントとして参加しました。最後には病理専門医、大学院生、医学部生が参加者からの質問に答えました。

このセミナー全体を通して参加者からは、「病理医についてたくさん知ることができ、とても興味が湧きました」、「顕微鏡でがん細胞を見るのが楽しかった」、「がんについてとても興味がわき、がんといってもいろいろな違いがあることが分かりました」など多くの感想をいただき、セミナー内容には多くの方にご満足いただけたようです。



（病理標本実習の様子）